

限局型小細胞肺癌の化学療法併用加速過分割放射線治療を受けられた方へのお知らせ
～拒否機会の保障（オプトアウト）の開示について～

肺癌は非小細胞肺癌と小細胞肺癌に大別され、小細胞肺がんは肺癌全体の約 15%程度を占めています。また、年間約 8000 人程度の方が小細胞がんで死亡していると推定されています。小細胞肺癌は非小細胞肺癌と異なり、腫瘍の増殖が速く遠隔転移を来しやすいという特徴があるため、すべての病期で化学療法が施行されています。一方、小細胞肺癌は放射線にも感受性の高い腫瘍であり、限局型に対する根治的治療として、化学療法と同時に胸部への放射線治療も必須と考えられています。胸部放射線治療の線量分割法として、通常分割照射法（60Gy/30 回、1 回/日、総治療期間約 6 週間）と加速過分割照射法（45Gy/30 回、2 回/日、総治療期間約 3 週間）がよく用いられていますが、比較の結果、全照射期間を短縮する加速過分割照射法の治療成績が良好であることが示されています。照射技術の向上に伴い、当院の手法やその治療成績がこれまで報告されているものと一致しているとは限りません。そこで、今回化学療法併用加速過分割照射を行った一連の限局期小細胞肺癌症例を遡及的に検討し、当院における全生存率および無再発生存割合がこれまでの報告と相違ないか比較検討します。

研究に使用するデータは、個人情報情報を匿名化した後に使用するため、個人情報情報が外部に漏れることはありませんが、この研究に「自分のデータを使ってほしくない」と思われる場合には申し出が可能です。また、「研究」や「オプトアウト」に関し質問がある場合は本研究担当者までご連絡ください。

【研究課題名】

限局型小細胞肺癌に対する化学療法併用加速過分割放射線治療の治療成績

【研究の目的】

当院における全生存率および無再発生存割合がこれまでの報告と相違ないか比較検討します。

【研究の対象】

当院でこれまで治療された限局型小細胞肺癌患者

【研究に使用する情報】

対象の治療を受けられた方の匿名化された CT 画像データと病巣部・臓器の輪郭情報
線量分布図および DVH、治療後の経過（電子カルテ）

【研究成果の公表】

学会発表

【共同研究機関】

なし

【個人情報の取扱い】

対象の治療を受けられた方の CT 画像データと病巣部・臓器の輪郭情報を匿名化し、個人を特定する情報（お名前、ID、住所等）を含まず、個人が特定できないような形で

使用します。

【お問い合わせ等の連絡先】

福井県立病院陽子線がん治療センター 医長 建部 仁志

(電話番号) 0776-54-5151

(メールアドレス) youshisen@pref.fukui.lg.jp